

臨床的(保育現場)な発達観察力を身につけるための水曜 夜 講座 全4回 開講決定

発達障がい児のリスク(兆候)は保育室で見つかります。

確実に発達障がい児が増えています。保育現場での具体的な対応策に保育者は頭を痛めています。今、保育室にいる発達障がい児の支援も大切ですが、一般に発達障がい児のリスク(兆候)は乳児期から現れると言われています。例えば、1歳6ヶ月になっても指差しをしない、バイバイの手のひらを自分の方を向けている。また、3歳児の自閉症スペクトラム症と判定された子どもの、誕生7~10ヶ月頃のホームビデオの観察から、視線が定まらなくて追視が不十分だったことも観察されました。乳児期の反射運動が未熟なまま持ち続けている子どもは、小学校でじっと座れない、不器用さが目立つ等の行動が報告されています。

[日程] ① 9/24 (水) ② 10/22 (水) ③ 11/26 (水) ④ 12/17 (水)

[時間] 18:30~20:30

[費用] 1回 5000円 全4回お申し込みの方 18000円 (毎回支払い)



●担当講師 臨床経験 NPO法人国際臨床保育研究所

☆辻井 正



- ・ドイツ障害者の町「ベテル」にて、てんかん性発作のある少年の家(カペルナウム)看護助手として勤務。勤務の傍らに看護コース(夜間部)の訓練を受ける。
- ・その後、ドイツケルン大学Vojta(ボイタ)法訓練コースを修了。
- ・帰国後、大阪大手前肢体不自由児施設にて病棟勤務指導員として(4年間)
- ・帰国後、知的障害児通施設「生野子どもの家」園長代理として勤務(5年間)
- ・乳幼児障害児のための「おもちゃライブラリー」を大阪に設立する開設する。
- ・現在 アサヒ子ども相談(朝日新聞社厚生文化事業団)カウンセラー



☆辻井 明 ・ニュージーランドPMP(感覚運動訓練法)コース修了 ・各地の講習会にてPMPの実践指導を行なう

☆勝山 結夢 ・オランダCito, ドイツCitoにてピラミーデ研修コース修得
・メストネック博士セラピー教具のセラピストとして公認される



第1回 9/24

言葉おくれの子どもの発達
的リスクに早く気がつき
遊びの支援を行なう

乳児室で保育者の動きを視線で追う、口元を見る子どもは言葉が早いことが観察されています。2ヶ月頃のクーイング(喉をクツクツ)から始まって、なんご、一語文、二語分へと発達します。発達のリスクに気がついてあげて早く支援する方法を学んでいただきます。

第2回 10/22

動障がいのある子どもの発達
的リスクに気がつき
遊びの支援を行なう

お尻で床を移動している、ハイハイをしないで歩き始めた子どもは、椅子に座っても不自然な姿勢です。また、机でものを書くときもひじに頭を乗せています。脳性運動障がいのある子どもへの神経系の流れを楽にしてあげるフアシリテーション(疎通)テクニックも学んでいただきます。

第3回 11/26

知的なおくれのある子どもの発達
的リスクに気がつき
遊びの支援を行なう

指先の代わりに保育者の手を持って物を指し示す、バイバイの手のひらが自分の方向に向けている子ども、外言語としての発声が難しい子ども、学習的な認知が理解できない子どもへの具体的な支援方法を学んでいただきます。

第4回 12/17

自閉症スペクトラム症児(じっとして
いない、ものへのこだわりが強い、集
団に入らない)子どもの発達のリスク
に気がつき遊びの支援を行なう

3歳で自閉症スペクトラム症と判定された子どもの5~8ヶ月頃の育ちを保護者からの聞き取りやホームビデオの観察から分かってきたことは、目を合わさなかった、ものを追視しなかったと報告されています。乳児期のリスクがわかれば、早くから支援することで、こだわりは消えていくという研究も行なわれています。日常の保育活動が自閉症スペクトラム症児の発達に大きな影響を与えます。

○をおつけください。

受講者名: _____ (ご希望講座 第1回 第2回 第3回 第4回) ご勤務先: _____

ご連絡先: 〒 _____ Tel _____

▽お申し込みいただきました方には後日、申し込みご確認書と当研究所までのアクセスマップをお送りいたします。

上記をご記入の上、**06-6773-3008** までFAXをお願いいたします。



NPO法人 国際臨床保育研究所
Kid's International Clinical Childcare Center

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-4-11 KIMURAビル5階
電話: 06-6773-3348 FAX: 06-6773-3008
e-mail: info@kiccc.jp HP: www.kiccc.jp